

中華民国初期におけるボーイスカウト運動の 受容に関する一考察

—「童子軍」の「ちかい」と「おきて」の検討を通じて—

孫 佳 茹

はじめに

本稿は20世紀10年代にボーイスカウト運動の中国における受容のあり方を「ちかい」と「おきて」を通じ、検討するものである。

1907年イギリスで始められたボーイスカウト運動は、20世紀最大の青少年運動とも言われている。その影響力は、後にその創設者である英国軍人バーデン・パウエルの子供も超え、20世紀の前半に世界各国へ広がっていく。中国においても、中華民国（1912～1949年）の初期に輸入されたボーイスカウト運動は、当初は「舶来品」として、やがて中華民国史上において、青少年組織として不動の地位を獲得していく。

ボーイスカウト運動の中国における受容には主導者によって主に3段階に分けられる。1910年代の導入初期には武漢や上海の租界にあるミッション系スクールを中心に展開していた。やがて、10年代半ばから江蘇省無錫をはじめ、中国現地の学校に広がりを見せ、次第に全省ないし全国へ広がっていく。そして地域の教育団体や教育関係者によって発展を遂げたボーイスカウト運動は、1926年以降、国民党によって政党機関の下部組織に編入され、第二次世界大戦中には、「三民主義の少年兵」として期待され、多くの青少年が国民党の統後活動に巻き込まれた。

このようにボーイスカウト運動は中国の青少年教育史における大きな研究対象でありながら、その初期における受容のあり方にはまだ不可解な点が残っている。後に「三民主義の少年兵」として、国民党政権に「党化」されるまで、民間の教育関係者や教育団体によって推進されてきたボーイスカウトは、当初、どのような目的の持つものとして、中国で受容されていったのか。

従来の研究、とりわけ中国における研究では、中国側の学校で実施するボーイスカウト運動をイギリスに起源を持つものとして認めながらも、上海の租界の教会学校において外国人教員によって行われた中国人児童向けのボーイスカウト運動は一律に「欧米的」で、中国の国情に合わないものとして認識されてきた。そのため、中国のボーイスカウト運動に関わる多くの研究は、中国側学校が童子軍運動の指導的立場を占めるようになった江蘇省童子軍連合会時期に集中しており、欧米のボーイスカウト運動との関係や上海の教会学校にて展開されていたボーイスカウトは看過されたままであった。

しかし、上海租界での活動と後の江蘇省での活動とを、完全に無関係として扱う場合、イギリスのボーイスカウト運動が、なぜ、どのように中国に入ってきたのかが明らかにされず、また、「欧米的」

ではなく、中国に合うボーイスカウト活動とはどのようなものなのかについての説明が難しくなる。

従来の研究の問題点は、ミッション系スクール時期の資料不足が原因で、上海にある教会学校主導時期についての検討が不十分といた研究状況から、教会時期と江蘇省に展開していく時期といった両者の連続・不連続性が意識されないまま、研究が進められてきたことにある⁽¹⁾。その直接的な影響として、中国童子軍研究史の基礎的な研究内容に歪みをもたらししている⁽²⁾。ボーイスカウトは中国において、ミッション系勢力の進出している上海などの大都会を主要拠点に組織網を形成し⁽³⁾、都市部、もしくはその周辺の中国側学校に広がる形をとっているにもかかわらず、租界時期の活動の役割はあまり認められてこなかった。

日本の少年団の研究者である田中治彦が指摘したように、「スカウトの目的はその『ちかい』と『おきて』に集約されて表現されている」⁽⁴⁾と言える。そのため、本稿では、租界時期から江蘇省童子軍会時期までの「ちかい」と「おきて」について比較検討を行うことを通じ、租界時期のボーイスカウト運動の目的が中国側学校に広がっていくに伴い、どのような変化を遂げていったのかを明らかにする。

その際、一つの視点として、イギリスに起源を持ち宗教的な色彩をもつボーイスカウトが中国側の学校に導入される際、「ちかい」と「おきて」にある宗教関連な内容はどのように中国側の学校には受け入れていかれたのか、に焦点を当てる。

本稿で取り上げる通則（「ちかい」と「おきて」の総称）のうち、上海ミッション系スクール関係者を中心とした租界側の童子軍会の制定した3点の第1次資料は、これまで利用されてこなかった。特に『The Chinese Boy Scouts' Association. Policy, organization and rules.』（The Commercial Press, LTD, 1915年）は、日本の東洋文庫で発見されたものである。

本稿における用語について、簡単に説明をしておきたい。まずイギリスに由来する「Boy Scout」の中国語の訳語として「童子軍」を使用する⁽⁵⁾。そして「Scout Oath」と「Scout Law」は、中国語では「誓詞・願詞」や「規則・規律」と訳語が定かではないが、原文引用以外の場合、「ちかい」と「おきて」という表現を使用する。

本文は3部分から構成されている。まず、1908年版のイギリスボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」とその中国語翻訳版について記述する。次に、上海租界童子軍組織によって出版された「ちかい」と「おきて」の変化を検討する。最後に、上海のボーイスカウト活動から影響を受けた江蘇省の「ちかい」と「おきて」の内容を学校レベルと省レベルで比較分析を行う。

1. イギリスボーイスカウト運動の「ちかい」と「おきて」

バーデン・パウエルによるイギリスのボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」が記された最初の書物は1908年に出版された『Scouting for Boys』であった。同書はタイトル通り、少年のためのスカウト術であり、少年向けでスカウティングを紹介する本だった。中には、児童はボーイスカウトになるために、一定の技能を身につける上でスカウトの3つの「ちかい」をし、そして、9つの「おき

て」を守ってはじめてボーイスカウトになれる、と説明している⁽⁶⁾。具体的な内容は下記である（英語版は本稿の最後にある添付資料「童子軍通則比較一覧表」を参照）。

「スカウトのちかい」（Scout Oath）

私は私の名誉にかけて私の最善をつくすことを誓います。

- 一、神と国王とに私の義務を果たします。
- 二、常に他人を助けます。
- 三、スカウトのおきてを守ります。

「スカウトのおきて」（Scout Law）

- 一、スカウトは名誉を重んずる。
- 二、スカウトは国王、上官、両親、国家及び雇主に対して忠実である。
- 三、スカウトの義務は有用の人物となって他人を助けることである。
- 四、スカウトは身分階級を問わず総ての人の友であり、他のスカウト総ての兄弟である。
- 五、スカウトは礼儀正しい。
- 六、スカウトは動物の友である。
- 七、スカウトはその両親、班長（パトロールリーダー）また隊長（スカウト・マスター）の命令に絶対に服従する。
- 八、スカウトはどんな状況にあっても微笑み口笛を吹く。
- 九、スカウトは勤儉である。
- 十、スカウトの思想、言語、行為は清らかである。

注：①上記日本語訳は田中治彦『ボーイスカウト一〇世紀青少年運動の原型一』中公新書、1995年、37-38頁より引用。②第十項は1911年版で付け加えられたと田中は指摘している。

『Scouting for Boys』はその後、教会を経由して、欧米から中国にも入るようになった。その中国語の翻訳版は、1912年に『童子警探』というタイトルで上海中国聖教書会によって初版印刷発行された。『童子警探』の出版は、中国人児童向けのボーイスカウト運動の展開とあいまって、のちに中国でボーイスカウト運動に携わる際の必携書となるほどの存在だった。

ちなみに、上記「ちかい」の日本語訳である第一項「神と国王とに私の義務を果たします」は英語原文「I will do my duty to God and the King.」と照らし合わせると、「神」は「God」を指すことが分かる。そして、『童子警探』ではこの条文を「完盡我對於上帝國家之天職（ゴッドと国家に私の天職を果たす、筆者訳）」とし、「King」のことを「国家」と訳している⁽⁷⁾。

それ以外は、3つの「おきて」と9つの「ちかい」について、『童子警探』は英文の内容を忠実に再現していると言えよう。そのため、この「King」－「国家」の訳し方は、1912年に退位した清王朝の皇帝を擁護する誤解にならないための工夫であると考えられることができる。

2. 上海租界におけるボーイスカウト運動の展開⁽⁸⁾

1907年にイギリスに作られたボーイスカウトは、早くも1910年の時点で中国での展開が確認できる。その主体となったのは、上海租界にある外国人児童であった⁽⁹⁾。

上海の租界にいる中国人児童向けのボーイスカウト事業が展開されたのは、その2年後の1913年の春だった。工部局による租界にて初設置となった中国人児童向けの学校である華童公学（The Public School for Chinese）において、学校長・康普（G. S. F. KEMP）によって上海で初めて中国人児童対象のボーイスカウトが設立された⁽¹⁰⁾。児童の訓練に当たったのは、イギリス人の羅賓生（F. ALAN ROBINSON）⁽¹¹⁾であった。

第1隊の誕生とともに、中華童子偵探会（The Chinese Boy Scouts Association）という中国におけるボーイスカウト運動推進のための機関も設立された⁽¹²⁾。そして、華童公学に続き、1917年の時点まで、租界には合計11隊のボーイスカウト隊があった⁽¹³⁾。

租界の中で著しい発展を遂げたボーイスカウト事業が、その存在を社会全体に知らしめたのが、1915年に上海にて行われた「第2回極東選手権競技大会」における「ラリー」であった。この大会においては上海6隊と広東2隊と8隊のボーイスカウト隊が、スカウトのパフォーマンスを披露し⁽¹⁴⁾、来場者から大きな注目を浴びるようになった。ラリーデビューがボーイスカウト運動を中国全国へ広げる契機となった。

この大会におけるボーイスカウトのデビューは、計画的なものだった。このデビューに尽力したのは、中国人児童のボーイスカウト事業に積極的に乗り出し、華童公学に引継ぎ、第2隊を設立した上海基督教青年会（上海 YMCA）であった⁽¹⁵⁾。上海 YMCA は北米 YMCA の流れで、1900年に上海にて設立された中国初の都市青年会であった⁽¹⁶⁾。ボーイスカウト事業の振興に対し、上海 YMCA の関係者は、当初から興味を示していた⁽¹⁷⁾。

まず、1913年の夏より、上海 YMCA はボーイスカウトのキャンプ活動を企画し、同年末までに、華童公学からボーイスカウト隊設置のための認定を受け、1914年の正月に YMCA ボーイスカウト隊第1隊の隊員募集を始めた。スカウトチーフはアメリカ人の克樂愷（J. C. CLARK）だった。

上海 YMCA はアメリカの影響下にあったにもかかわらず、イギリス式の華童公学からスカウト隊設立認可を受けた関係からか、その「ちかい」と「おきて」はイギリス式のものであった。3項の「ちかい」と10項目の「おきて」⁽¹⁸⁾は、すべての内容において、『Scouting for Boys』に記されたものと顕著な違いは見られない。

次に、1915年5月第2回極東選手権競技大会の開催まで、上海 YMCA は自身のスカウトチームの練習に力を入れたほか、聖約翰大学をはじめ他校との交流やボーイスカウト術の伝達にも積極的に参加していた。そして、上海 YMCA 関係者が第2回極東大会組織委員会メンバーとして、上海ボーイスカウトの大会においてラリーの企画をしており、このことはボーイスカウトの存在を全国に知らしめる上での貢献が大きかったと考えられる。

大会終了後も、上海 YMCA は年度内に、週 1 回のペースで 4 ヶ月にわたり、ボーイスカウト・マスターを養成するためのスクールを開催した。もともと、これは上海租界内の学校に限定した話であるはずだったが、江蘇省教育会という中国側の教育団体による積極的な働きかけにより、江蘇省中国側学校の教師にも無料で受講する枠を 20 名設けることになった⁽¹⁹⁾。

このように見てくると、上海 YMCA のボーイスカウト事業への積極的な関与は 2 つの成果をもたらした。一つは第 2 回極東競技大会におけるボーイスカウトのデビューがもたらした中国におけるボーイスカウトの全国的組織の発足だった。大会後、ボーイスカウトに関心の持つ関係者が集まり、中華全国童子軍協会の設立を決定した。そして、従来の中華童子偵探会が上海童子軍会として、新たに加わった 6 つの分会（広東、蘇州、天津、北京、南京、漢口）と一緒に新たな全国組織——中華全国童子軍協会（Boy Scouts Association of china）を結成した⁽²⁰⁾。

今一つは、以下に述べるが、租界で盛んに展開してきたボーイスカウトに関わる知識を、江蘇省の中国側学校の関係者に伝えることができたことである。

中華全国童子軍協会による「ちかい」と「おきて」は、1915 年、1916 年と 1918 年（中国語版）と 3 つのバージョンがあった。三者共通して、従来のイギリス式の 10 条の「おきて」と比べると、すべてアメリカ式の 12 条となっている。

文末の「童子軍通則比較一覧表」で確認できるように、1915 年の「ちかい」は極めて特別なもので、イギリス（1908）にもアメリカにも依拠しておらず、宗教的色彩を全く見せていない。そして、「おきて」はアメリカと完全一致しているため、第 12 条には「He is reverent toward god. He is faithful in his religious duties」という宗教的な内容が残っている。

1916 年の改訂版⁽²¹⁾は「ちかい」はイギリス・バージョンにより近いものであるが、「ちかい」の「1. I will do my duty to God and the King.」の「God」と「King」は「天」と「国家」へと変った。「おきて」はアメリカ・バージョンのままであり、「おきて」の 12 条において 1915 年版を引き継ぎ、ゴッドに対する敬虔な気持はそのままであった。

さらに、前の 2 版と比べ、1918 年の中国語版において、一番大きな変化は「ちかい」の最初の「天」に対する天職という内容が抜け、「国家に対し、自分の責任を果す」と変ったことである。そして、「おきて」の 12 条においては、ゴッドに対する敬虔な気持から、スカウトは自分の信仰に対し忠誠心を持つことへと変った。

このように、租界童子軍会と密接な関係をもつ中華全国童子軍協会によって制定された中国人児童用の「ちかい」と「おきて」には少しずつ「God」という内容が抜けていくことが分かった。

3. 江蘇省における童子軍事業の展開⁽²²⁾

上海租界と隣接している江蘇省中国人側学校にて、初めてボーイスカウト隊を設立したのは江蘇省立第三師範附属小学校であり、それは 1915 年 4 月のことであった。その提唱者は江蘇省立第三師範附属小学校の主事・唐昌言であった。スカウトの実際の訓練に携わったのは、上述の 1915 年に上海

YMCA が開設したスカウトマスタースクールを卒業した顧拯来だった⁽²³⁾。

第三師範附属小学校はボーイスカウトの設立のため、他の機会にも上海 YMCA に指導を受けに行ったことがある⁽²⁴⁾。このように租界側のミッション系スクールから親密な関係を持った第三師範附属小学校のボーイスカウトであるが、その「ちかい」はイギリス的でありながらも、宗教的な内容を払拭しており、「おきて」⁽²⁵⁾は、意外にもイギリス・バージョンとも、アメリカ・バージョンとも異なるものだった。

まず、「おきて」の数は 11 項というかなり独特の数である。そして、内容的に、アメリカにも、イギリスにも見られないものとして、下記がある。

第 2 項「義勇隊員做事須堅忍不拔。百摺不迴。」

（隊員は事を行うには堅忍不拔であること。何度挫折しても意志を曲げないこと）。

第 3 項「義勇隊員須勤奮學習。勉為社會有用之人。並扶助他人」

（隊員は勉強に励むこと。社会に役立つ人材を目指すこと。他人を助けること）。

第 4 項「義勇隊員在校須遵守規則。並聽從師長之教誨。」

（隊員は学校では規則を守ること。教員の教えに従うこと）。

第 5 項「義勇隊員須孝順父母。友愛兄弟。」

（隊員は親孝行で、兄弟を愛すること）。

第 7 項「義勇隊員須互相親愛。互相協助。」

（隊員同士は仲良くし、協力し合うこと）。

第 8 項「義勇隊員須崇尚公德。對於公共器具，與公傢建築物。尤當愛護。勿失敬意。」

（隊員は公德を重んじること。公共の物品と公共の建物を大切にし、マナーを保つこと）。

注：第 2 項から第 8 項までの内容はイギリスもしくはアメリカ・バージョンに通じるものもあるが、形式が一致していないため、項目を全文引用した。また、日本語訳は筆者によるものである。

第三師範附属小学校の動きを受け、1916 年 2 月、唐を中心に、無錫童子軍連合会（合計 11 団）が設立された⁽²⁶⁾。その後、研究会が開かれ、童子軍の「ちかい」と「おきて」の統一が図られた。文末の表で確認できるように、統一された「ちかい」と「おきて」は租界童子軍会の制定したものと酷似していることが分かる。

無錫童子軍連合会の成立により、図られた童子軍通則の統一は、のちに、1917 年に設立された江蘇省童子軍連合会⁽²⁷⁾による童子軍講習会の教材『童子軍講義』⁽²⁸⁾にそのまま使用され、さらに、江蘇省童子軍連合会の通則にもなった。同通則⁽²⁹⁾の出版目的は、当時ばらばらであった各地の独自の訓練法を統一するためであった。この無錫童子軍連合会そして江蘇省童子軍連合会で使用された。またほかの資料の分析から、1917 年に改訂を重ね制定された無錫童子軍連合会の「ちかい」と「おきて」は江蘇省のほか地域のみならず、北京にも影響を与えていることがわかる。1917 年、北京童子軍連合会が設置され、その組織法にあたる『京師童子軍辦法』⁽³⁰⁾が発表され、「江浙（江蘇省浙江省のこと）

の設立経緯を模倣し、下記のものを作った」と述べている『京師童子軍辦法』は江蘇省童子軍連合会の復刻版とも言えるほど、一致しているのであった。

無錫や江蘇省といった連合会レベルの童子軍規則は租界童子軍会の「おきて」に酷似している現象と対照的に、江蘇省立第三師範小学校の「おきて」は独自の特徴を持ち、「忠誠心」や「他人愛」といった内容を減らし、その代わりに「学習」といった中国的なものを加えている。この特徴は一番はじめにボーイスカウトをはじめた中国側の学校として、ボーイスカウトをもっと早く定着させようという意図によるものと推測できるだろう。

4. おわりに—各時期におけるボーイスカウト通則に関する考察—

以上の分析から、イギリスに起源をもつボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」の中国における受容の在り方を明らかにしてきた。

第1には、租界において全国組織が作られるまで、上海租界の外国人を中心とした中華童子偵探会（The Chinese Boy Scouts Association）時期の受容の在り方である。この時期において、筆者は1908年イギリスのものと該当する1912年中国語翻訳版のものと、1914年イギリス的ボーイスカウトの影響を受けた上海YMCAの通則を扱った。その結果、1912年の中国語版はボーイスカウトの目的を直前に退位した清王朝の皇帝を擁護するものと誤解されないように、「1. I will do my duty to God and the King.」を「ゴッドと国家に私の天職を果す」と訳した程度の変化に留まっていた。まだ目新しい事業として、紹介目的でボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」を扱った結果と判断できよう。

第2は、租界において全国組織である中華全国童子軍協会（Boy Scouts Association of China）が設立されてからの受容の在り方についてである。この時期の通則は1915年版と1916年版と1918年（中国語）版がある。

まず、中華童子偵探会の時期に比べ、全体的にアメリカボーイスカウトの形式をとるようになった傾向が見られた。また、中華全国童子軍協会の通則において、その自身の宗教に関する寛容度が高まった傾向が見られた。本稿の最後に添付する「童子軍通則比較一覧表」で分かるように、1916年版の「ちかい」第1項は「行吾天職及對國家之義務（自分の天職と国家に対する義務を行う）」であるが、1918年版では「對於國家。応尽己之責。（国家に対し、自分の責任を果す）」と、「天」に対する義務がなくなったことが分かる。さらに、「おきて」第12項にある「童子軍對於上帝須存虔敬之心（Godに対し、敬虔な気持を持つ）」（1915・1916年版）から「童子軍對其信仰之教。應有忠敬之心。（スカウトは自分の信仰している宗教に対し、忠誠で尊敬な心を持つこと）」（1918年版）へと変った。これは、童子軍事業の中国における新興のために設立された中華全国童子軍協会が、中国全土へと童子軍事業を普及・推進するために、現れた変化と考えられる。

第3に、無錫が象徴する中国人側学校におけるボーイスカウト運動の受容のあり方である。

まず、「童子軍通則比較一覧表」の比較検討から理解できるように、上海基督教青年会からボーイスカウト組織の指導を受けたにも関わらず、江蘇省立師範第三小学校のスカウト隊の「ちかい」は第

1 条が「願盡我對於國家之天職（私の国家に対する天職を尽くす）」となっている。これからは、上海 YMCA の該当項目の「完全盡我對於上帝及國家之天職（私のゴッドと国家に対する天職を尽くす）」と比べ、「ゴッドに対する天職」の宗教的な内容がなくなったことが分かる。そして、指導を受けたにもかかわらず、第三師範小学校の「おきて」の内容はかなりオリジナリティのあるものとなっている。両者の比較を通じ、個々のレベルの交流（「YMCA」―「第三師範付属小学校」）においてボーイスカウトの受容は宗教的な色彩が取り払われるほか、中国固有の文化が取り入れられるようになっていく傾向が見られた。

次に、連合会（「無錫童子軍連合会」―「中華全国童子軍總會」）のレベルで見ると、両者は形式的にも、内容的にも、かなり類似してくることが分かった。1917 年にできた無錫バージョンと、その前年に出された 1916 年租界童子軍会の通則と比較すると、「ちかい」においては全く変化が見られず、唯一違うところはおきての 12 条の前半部分だった。この条文の後半部分は、両者とも他人の宗教習慣に対する尊重を強調しているが、租界側の前半部分の「童子軍對於上帝須存虔敬之心。（童子軍はゴッドに敬虔な気持ちを持つこと）」と宗教的な色彩を示しているのに対し、無錫のほうは「童子軍須崇尚公德愛護公物（公德を持ち、公共物を大事にすること）」へと一般的な社会マナーを教える内容と変わっている。

第三師範付属小学校の「ちかい」や「おきて」は独自のものを制定したものの、童子軍連合会の設立により、規則の統一が図られ、次第に、無錫童子軍連合会の制定した規準は、租界側童子軍会のもの（1916 年版、1918 年版）と内容にも形式的にもかなり似てくることが分かった。

上記の分析により、ボーイスカウト運動の中国における受容には、以下の経緯がみられる。①中華童子偵探会時期においてはイギリスのちかいとおきてをミッションスクールがそのままの受容、②ミッションスクール関係者を中心に設立された中華童子軍總會時期では、アメリカ的な形式をとりながらも、自身の宗教的な色彩を取り除いていく受容、③上海租界からボーイスカウト運動の流れを受けた中国側学校で、個々の学校レベルではオリジナリティのもつ「ちかい」と「おきて」が創出されていくにも関わらず、中国側学校の童子軍連合会といった統一を図ろうとする機関の設立により、やがて国際的なボーイスカウト理念と共通の形式を保とうとしつつ、中国に適した内容へと若干の修正を加えての受容、以上が確認できた。

上記の考察を受け、イギリスに起源をもつボーイスカウトは上海租界にあるミッション系スクールを経て江蘇省の中国現地学校へ広がった際、そのもともとの目的を表した「ちかい」と「おきて」については宗教的な色彩を取り払いつつ、中国的なものはほぼ入れないまま、「童子軍」として中国に導入していったことがわかる。このような導入の仕方には中国の教育関係者や教育団体がボーイスカウトの理念に賛同していたことの裏づけとして見ることもできよう。ただし、このような受容のあり方は「童子軍」運動を、国民党政権が「党化」する際、スムーズにはいかないことを予測していると言っていよう。

今後の課題として、上記で確認できた中国での定着化の底流にある基本的な考え方はどのようなも

のであるか、この時期の教育系雑誌に発表された童子軍関連の記事を検証し、中国教育界におけるボーイスカウトについての認識のあり方を合わせて考察していきたいと考える。

- 注(1) 先行研究の孫玉芹の論文「民国童子軍研究中存在的兩個問題」(『安慶師範学院学報(社会科学版)』, 30 卷 1 号, 2011 年)では、この点について指摘されている。しかし、氏の論文では、課題に対するアプローチが厳密に行われたとは言い難い。
- (2) たとえば、最新の江蘇省童子軍についての研究(孫玉芹「江蘇童子軍研究: 1915-1926」『南京政治学院学报』, 2011 年第 1 期, 27 卷 155 号, 76 頁)では、連続・不連続の研究がなされていないまま、「上海などで欧米人の設立した学校で行われた童子軍はすべての規則は欧米のままであるため、中国の国情に合わないものであり、児童の発達にも合わないものであった」と指摘がみられる。また、羅敏の研究(「抗日戦争前江蘇童子軍研究」, 蘇州大学修士論文, 2009 年, 15 頁)では、明らかにアメリカスカウトのおきての特徴(12 条のおきての形式)を持つ江蘇省童子軍連合会の通則を、イギリスの模倣であると指摘している。
- (3) YMCA をはじめとするミッション系勢力のものとで童子軍が発展を遂げた背景には、ボーイスカウトは少年の人格形成に影響を与え、有意義な自治の社团と位置づけられていたことがある。中華継行委員会調査特委会『1901-1920 年中華基督教調査資料 下巻(原『中華帰主』)』中国社会科学出版社, 2007 年, 953 頁。
- (4) 田中治彦『少年団運動の成立と展開—英国ボーイスカウトから学校少年団まで—』, 九州大学出版会, 1999 年, 36 頁。
- (5) 中国に輸入された民国初期において、「童子軍」のほか、「童子偵探」や「童子義勇隊」や「童子傭兵」といくつかの訳語があった。そして、「童子軍」は民国前の清末からすでに見られた言葉ではあったが、「少年兵士」の意味を持っていた。異議もあったものの、次第に「Boy Scout」の定訳として、定着していく。本稿では、中国で展開されたボーイスカウトのことを「童子軍」という訳語で表現することを約束しておく。
- (6) Robert Baden-Powell『scouting for boys』OXFORD University Press, 2005, (The Original 1908 Edition), 36 頁。
- (7) Samuel Ren 訳『童子警探』上海中国聖教会書印發, 1917 年 3 版(初版 1912 年), 21 頁。
- (8) 中国人児童向けのボーイスカウト事業を最初に展開した所が武昌と上海と二つの説があるが、盛んな展開を見せてくれたのは上海であったため、本稿は武昌のことを省き、上海の展開に絞る。
- (9) 上海档案馆『工部局董事会會議録(第十七冊 1908-1910 年)』中国古籍出版社, 2001 年, 490 頁。1910 年 11 月 9 日の工部局(上海租界の役所に相当する機関)の会議では、租界ボーイスカウト活動のための部屋の貸し出しのことが議題の一つに上った。
- (10) 上海童子軍會長華童公學校長康普,「中国童子軍」『新青年』, 1917 年 2 卷 5 号, 1 頁。
- (11) 「本報贊成人: 中華童子軍上海總司令羅賓生君」『中華童子軍』, 1919 年 1 卷 1 号, 1 頁
- (12) G. S. F. KEMP「The Scout Movement in China」『The Chinese Recorder』, 1915 年, 434 頁。
- (13) 1917 年第 5 期の『新青年』に発表した「童子軍報告」によれば、それまで上海にある中国人童子軍は合わせて 11 隊となり、第 2 隊上海基督教青年会(YMCA)と第 3 隊の聖約翰大学(ST. John's University,)に続き、第 4 隊浸会大学(Baptist University), 第 5 隊聖約翰青年会(ST. John's - YMCA), 第 6 隊育才公学(The Ellis Kadoorie Public School for Chinese), 第 7 隊は復旦公学, 第 8 校は麦倫書院(Medhurst College), 第 9 校は南洋公学, 第 10 校は南洋公学付属小学校, 第 11 校は法文公学がある。
- (14) G.S.F.KEMP「The Scout Movement in China」『The Chinese Recorder』, 1915 年, 435 頁。
- (15) 1913 年から 1915 年にかけて、上海 YMCA のボーイスカウト関係の活動記事は機関誌である『上海青年』において、確認できる。記事の数が 100 個に近いため、本論では記事ごとの詳細の引用先を控えておく。
- (16) 張志偉「基督教与世俗化的掙扎—上海基督教青年会研究 1900 - 1922 -」台大出版中心, 2010 年, 13 - 14 頁,
- (17) G.S.F.KEMP「The Scout Movement in China」『The Chinese Recorder』, 1915 年, 435 頁。
- (18) 王朝陽「參觀上海青年会童子義勇隊報告」『教育研究』, 1915 年 19 号, 1 - 7 頁。上海 YMCA の「ちかい」

と「おきて」はこの見学報告にて確認できる。

- (19) 「蘇省教育會提倡童子義勇隊」『教育雜誌』, 1915 年 7 号 12 卷, 112 頁。
- (20) G. S. F. KEMP 「The Scout Movement in China」『The Chinese Recorder』, 1915 年, 434 頁。こちらで一点指摘しておくべきことがある。それは、中華全国童子軍協會、とりわけ上海分会の場合、その前身となったのは、租界にある欧米ミッション系スクール関係者による中華童子偵探会だったため、のちに、租界童子軍会と呼ばれるほど、上海にある中国側学校ボーイスカウト事業の指導機関上海県童子軍会とは並存し、業務上においてそれぞれ独立だったような関係が 1919 年の両者の合併まで続いていた。
- (21) 1916 年版の英語バージョンの存在は確認できるものの、史料自身の所蔵地は不明ではある。一方、当該英語バージョンの中国語訳文は同じくミッション系スクールとしてボーイスカウトを持っていた清華学校の雑誌『清華週刊』（浦薛鳳「中華民国童子軍協會政綱組織及規則」1918 年第 142 期）にて確認ができた。
- (22) 中国国民党江蘇省党務整理委員会『江蘇童子軍』, 中国国民党江蘇省党務整理委員会出版,（出版年は 1931 年以後と推測する）。
- (23) 冷雪樵「追憶顧拯来先生」『江蘇童子軍三十年』説文社出版部, 1945 年。
- (24) 希三「童子軍之討論」『教育雜誌』, 1916 年 8 卷 5 号, 9-13 頁。
- (25) 「江蘇省立第三師範付属小学組織童子軍義勇隊宣言」『教育雜誌』, 1915 年 7 卷 9 号, 29-33 頁。
- (26) 唐昌言「中華江蘇無錫童子義勇隊聯合會報告書」『教育雜誌』, 1916 年 8 号 10 卷, 33-37 頁。
- (27) 講演記録には魯賓（華童公学童子軍団長）、畢克士（A. L. BIGGS）、李思廉（南洋公学フットボール監督 A. H. LESLIE）が童子軍について講演をした内容が残っている。
- (28) 江蘇省教育会附設童子軍講習所編『童子軍講義』, 江蘇省教育会, 1920 年 5 月。初版 1918 年。
- (29) 江蘇童子軍連合会編『江蘇童子軍通則』, 1923 年。
- (30) 孫剛「民国時期北京開展童子軍教育史料」『北京檔案史料』, 2006 年, 128-140 頁。

添付資料

「童子軍通則比較一覧表」（次頁に掲載）

出典：下記資料に基づき、筆者作成。

- a: Baden-Powell 『scouting for boys』, Oxford University Press, 2005, (The Original 1908 Edition)。
- b: Samuel Ren 訳『童子警探』, 上海中国聖教会書印發, 1917 年 3 版。初版は 1912 年である。
- c: 王朝陽「參觀上海中国青年会童子義勇隊報告」, 『教育研究』, 1919 年 19 卷, 1-7 頁。
- d: アメリカボーイスカウト連盟ホームページ <http://www.scouting.org/> より。
- e: The Chinese Boy Scouts' Association 『The Chinese Boy Scouts' Association. Policy, organization and rules.』The Commercial Press, LTD, 1915 年。
- f: 薛鳳録「中華民国童子軍協會政策組織」, 『清華周刊』, 1916 年。(BOY SCOUT ASSOCIATION OF CHINA-POLICY ORGANISATION AND RULES Pub. 1916, SHANGHAI の訳文である)。
- g: 中華全国童子軍協會編, 『童子軍規律』, 商務印書館, 1921 年 4 版, 初版は 1918 年である。
- h: 唐昌言「中華江蘇無錫童子義勇隊聯合會報告書」『教育雜誌』, 1916 年 8 号 10 卷, 33-37 頁。また、無錫バージョンは江蘇童子軍講習會（1920.5）江蘇童子軍通則（1923）と北京童子軍章程（1917）と内容一致している。
- i: 「江蘇省立第三師範付属小学組織童子軍義勇隊宣言」『教育雜誌』, 1915 年 7 卷 9 号, 29-33 頁。

出典 年度	a	b	c	d	e	f	g	h	i	
	1908	1912	1914	1910	1915	1916	1918	1917	1915	
バー ジョン	『Scouting for Boys』	『童子警探』	YMCA	アメリカ版	中華全国童子軍協会			江蘇，無 錫連合会	無錫第三師範 付属小学	
ちかい (Scout Oath)	On my honour I promise that-									
	1. I will do my duty to God and the King.			1. To do my duty to God and my country	1. Carefully to learn the Scout Law,	1. 行吾天職 及對國家之 義務	1. To do my duty to my country			
	2. I will do my best to help others, whatever it costs me.			2. To keep myself physically strong, mentally awake and morally straight.	2. Firmly to love it, and	2. To help others				
	3. I know the scout law, and will obey it			3. and to obey the Scout law;						
おきて (Scout Law)	1. A Scout's Honour Is To Be Trusted.			1. A Scout is Trustworthy.						
	2. A Scout Is Loyal to the King, and to his officers, and to his country, and to his employers.			2. A Scout is Loyal.						義勇隊員做事 堅忍不拔。 百摺不迴。
	3. A Scout's Duty Is To Be Useful And To Help Others.			3. A Scout is Helpful.						義勇隊員須勤 奮學習。勉為 社會有用之人。 並扶助他人
	4. A Scout is A Friend To All, And A Brother To Every Other Scout, No Matter to What Social Class The Other Belongs.			4. A Scout is Friendly.						義勇隊員在校 須遵守規則。 並聽從師長之 教誨。
	5. A Scout Is Courteous.			5. A Scout is Courteous.						義勇隊員須孝 順父母。友愛 兄弟。
	6. A Scout Is A Friend To Animals.			6. A Scout is Kind.						义勇队员须绝 对服从总理协 理队长等命令。
	7. A Scout Obeys Orders of his patrol leader or scout master without question.			7. A Scout is Obedient.						义勇队员须互 相亲爱。互相 协助。
	8. A Scout Smiles And Whistles under all circumstances.			8. A Scout is Cheerful.						義勇隊員須崇 尚公德。對於 公共器具，與 公傢建築物。 尤當愛護。勿 失敬意。
	9. A Scout is Thrifty.			9. A Scout is Thrifty.						A Scout is Kind.
	10. A Scout is clean in thought, word and deed.			10. A Scout is Brave.						A Scout is Clean.
11. A Scout is Clean.						A Scout is Thrifty.				
12. A Scout is Reverent.						12. 恭敬	12. 公德			

注：1）時期の通則の変化が分かりやすいため，筆者は同じ内容のものを一つの枠に入れてある。

2）中国語のものに関しては，英語版と内容一致する部分は，英語で表記するようにしている。

3）a 列の「おきて」の項目 10 は 1911 年版『scouting for boys』が付け加えたものである。

4）i 列の中国語おきての日本語訳は本文第 3 部分にて確認できる。

5）その他の部分の中国語の日本語訳は本文で検討する際，随時翻訳している。